

視覚・聴覚障害に関連する切手

筑波技術大学保健科学部保健学科鍼灸学専攻

大沢秀雄

要旨：視覚・聴覚障害に関連する切手を調査・収集した。視覚障害関連の切手は、①点字に関する切手、②白杖や歩行に関する切手、③盲導犬の切手、④その他(職業・スポーツなど)の切手に大別される。聴覚障害関連の切手には、①耳や聴覚障害をイメージした切手、②聴覚障害の教育者の切手、③手話の切手、④聴覚障害者のスポーツ・文化活動などに大別される。切手の図案には発行国の発行された時代を反映していたことから、視覚・聴覚障害の歴史的な資料の一つとして重要である。

キーワード：切手、視覚障害者、点字、聴覚障害者、手話

1. はじめに

郵便切手は1840年にイギリスで初めて発行され、わが国では明治維新後の1871年に発行された。切手の本来の目的は郵便料金の前納の証紙であるが、国家が発行していることから、発行する国や地域の歴史・地理・自然・文化、そしてその時々の政策や経済情勢が強く反映される[1]。

そこで、視覚や聴覚障害に関連する切手を収集し、調べてみたところ、切手の図柄にはその時代や地域の状況が反映されていることがみられた。

平成18年7月22日、9月8日(春日キャンパス)、7月25日(天久保キャンパス)のオープンキャンパス[2]、10月14日～22日の毎日新聞つくば駅前移動支局において[3]、視覚・聴覚障害に関連する切手の展示を行った。これらの展示会に関する記事は毎日新聞茨城南版7月22日[4]及び10月20日[5]にそれぞれ掲載された。

さらに作品の一部を第41回全国切手展に出品したところ[6][7]、大銀賞を受賞することができた。

本稿では、これまでに収集することのできた視覚・聴覚障害に関連する切手の概説をする。なお、視覚・聴覚障害者の文化人(例えば、聴覚障害者としてベートーベンなど)の切手は紙面の都合から省かせて頂いた。

切手のデータはスコット切手カタログ2006年版8)を用いた。

2. 視覚障害に関連する切手

2.1 視覚障害関連の最古の切手

視覚障害に関連する切手の最古のものは、第一次世界大戦中の1916年にボスニア・ヘルツゴビナから発行された。この切手には「失明した兵士を誘導する少女」が描かれている。これは第1次大戦によって戦場となったヨーロッパでこのような失明者が多く生じた事を反映していると思わ

れる(図1①)。

2.2 バランタン・アユイに関する切手

バランタン・アユイ(1745～1822)はフランス人で1784年、パリに最初の盲学校を設立した。アユイは浮出文字(凸字)の印刷本を作った。アユイの肖像を描いた切手がフランスより1959年に発行されている(図1②)。

2.3 点字の発明者、ルイ・ブライユを描いた切手

ルイ・ブライユ(1809～1852)は3歳で失明し、1819年2月にアユイの創設したパリの盲学校に入学した。卒業後は、同校の教員として後進の指導にあたった。ブライユは1825年に6つの凸点による点字の骨子を完成させ、1829年には『言葉、音楽、そしてグレゴリオ聖歌を点を使って書くための盲人用の方法』を著した。

ブライユを描いた最古の切手は1931年のアルゼンチンの通常切手であるが、通常切手の図案に採用されたことが興味深い(図1③)。アルゼンチンでは1976年にも点字発明150周年の記念切手でもブライユの肖像を採用している。母国のフランスからは1948年に寄付金付切手で発行された(図1④)。その他、ブライユを描いた切手は、ソ連(1959年)、東ドイツ(1975年)、ペルー(1976年)、ウルグアイ(1976年)、ルクセンブルク(1977年)、マリ(1977年)、ギヤナ(1981年)、セント・ルシア(1981年)など多くの国々で発行されている。

2.4 点字の読み書きを描いた切手

点字の読み書きを描いた切手も数多く発行されている。点字の読みを描いた最古の切手は1931年にオランダより発行された(図1⑤)。その後、ブラジル(1952年)、エジプト(1961年)、シリア(1961年)、ベルギー(1962年)、モロッコ(1969年)、サウジアラビア(1975年)、スリナム(1981年)などから発行されている。手で点字を読んでいる風景を描いた切手が多い。それに対して、点字の書

きを描いた切手はあまり多くない。図1⑥（バルバドス、1981年）は点字タイプライターを使用して点字を書いている風景を描いている。

2.5 墨点字の切手

切手に墨字で点字を描いた墨点字の切手も数多く発行されている。墨点字の切手の最初のもは1959年ソ連発行の切手で、2番目の切手は1975年の点字発明150周年の記念切手として発行された、オランダ（図1⑦）、東ドイツ、ベルギーの切手である。図1⑧は1981年にドミニカで国際障害者年として発行された切手で、エレベータの階数表示が点字で描かれている。その他、南アフリカ（1981年）、ザール（1981年）、オランダ領アンチル（1981年）、ブルネイ（1981年）、デンマーク（1985年）、中国（1985年）、マン島（1986年）、キプロス（1990年）、メキシコ（1995年）、クロアチア（1995年）などで発行されている。

2.6 点字のエンボス切手

切手に点字を浮き彫りにしたエンボス切手も多数ある。その1番切手は1974年にブラジルで発行された「第5回世界盲人福祉会議」の小型シートである。ブラジルでは1979年にも点字発明150年の小型シートも点字のエンボス切手で発行している。

点字のエンボス切手に書かれている点字の内容は、切手の額面を書いてあるものが多いが、その他に様々なメッセージを書いた切手もあり、興味深い。ウルグアイ（1983年）発行のクリスマス切手には、“Feliz Navidad”（クリスマスおめでとう）、南アフリカ（2005年）発行の切手には“Hello”、ドイツ（2006年）発行の切手（図1⑨）には“mit Händen sehen”（手で見る）とそれぞれ点字で記載されている。

わが国の点字のエンボス切手には1988年の第16回リハビリテーション会議（「リハビリテーション」と点字表示）と1990年の日本の点字制定100年（「てんじ」と点字表示）（図1⑩）の2種類がある。

2.7 視覚障害者の歩行・白杖を描いた切手

視覚障害者にとって移動は重要な問題点である。補助者による歩行の誘導、行き先や障害物の判別のための白杖歩行をデザインとした切手も多数発行されている。

1967年にスイスから、盲人歩行者保護の宣伝切手が発行されている。車のタイヤを背景に白杖がデザインされている（図1⑪）。1977年にコンゴからは交通渋滞と盲人を誘導する子供が描かれた切手が発行されている。世界白杖の日の記念切手はフィリピン（1990年）、オマーン（2004年）、クロアチア（2006年）から発行されている。その他、補助者による盲人の歩行や白杖を描いた切手は、エジプト

（1973年）、マリ（1973年）、トリニダードトバゴ（1981・89年）、ガーナ（1981年）、バルバドス（1981年）、リベリア（1981年）、アルゼンチン（1985年）などから発行されている。

2.8 盲導犬の切手

1925年にザール（ドイツの属州）から、最初の盲導犬の切手が寄付金付きで発行された。盲導犬の組織的な訓練は第1次世界大戦後のドイツで失明軍人のための始まったとされており、この切手はこの事実をよく反映していると思われる（図1⑫）。盲導犬の切手はその後、1964年にオランダ、1971年にオーストラリア、1979年にアメリカ（図1⑬）と発行され、1980年以降はおよそ20カ国で発行されている。盲導犬の切手は西欧先進国で多く発行されており、この事も盲導犬の普及の状況をよく反映していると思われる。図1⑭に1985年にオランダ発行された盲導犬財団の切手を示す。最初の盲導犬sunnyが描かれている。

2.9 ラジオ・テープ・朗読サービスの切手

フランス（1938年）から、盲人がラジオを聴いている風景を描いた寄付金付き切手が発行されている（図1⑮）。この寄付金は盲人へのラジオ配布に使われた。この当時から、ラジオが視覚障害者の情報伝達の重要な手段であった事を示していると思われる。

視覚障害者にとって、テープなどの録音教材や朗読サービスは不可欠である。グリーンランド（1983年）からは盲人とカセットテープ、白杖を描いた切手が発行されている。南アフリカ（2004年）からはボランティアの活動を示した切手の10種類のうちの1種類に朗読サービスを行う風景を描いた切手が発行されている。

2.10 視覚障害者の職業に関連する切手

図1⑯に盲人がカゴを製作する風景を描いた、トランスカイ（1977年）から発行された切手を示す。同様にカゴなどの製作風景を描いた切手は、フィンランド（1954年）、アルジェリア（1976年）、ジャマイカ（1981年）、アンティグア・バーブーダ（1981年）、ケニア（1992年）などから発行されている。アジアやアフリカの開発途上国では触覚を生かした手作業によるカゴなどの製作が盲人の主たる仕事であり、切手上には、この事が強く反映されていると思われる。

また、タンザニア（1981年）から盲人の音楽家（ドラマー）を描いた切手が発行されている。

2.11 視覚障害者のスポーツ

車椅子のマラソンなど身体障害者のスポーツ、パラリンピック関連の切手は数多く発行されているが、視覚障害者のスポーツを描いた切手は少ない。1981年にケニアから

盲人の登山（晴眼者が盲人をワイヤーで誘導している）を描いた切手が描かれている。最近、ブラインド・サッカーの切手が、アルゼンチン（2003年）（図1⑰）、スイス（2005年）の2種類が発行されている。どちらも、アイマスクを着けた選手が競技している風景が描かれている。

2.12 失明予防・盲人救済の宣伝切手

1976年にバングラデシュが発行した切手には、視機能に重要なビタミンAを豊富に含むトマト、牛乳、ニンジン、卵の絵が描かれている（図1⑱）。このことは切手の発行当時、これらの国では失明の原因として栄養失調によるものが多かったことを示していると思われる。1976年にトゴで発行された切手には、盲人と共に昆虫が描かれている（図1⑲）。

失明予防や盲人救済の宣伝切手はその他、パキスタン（1965・76年）、インド（1976年）、ネパール（1998年）などアジアの開発途上国から多く発行されている。

3. 聴覚障害関連の切手

3.1 聴覚障害関連の最古の切手

聴覚障害関連の最古の切手は1931年にオランダで発行された、「口話法の訓練」を描いた切手である（図2①）。1880年、第2回ろう教育者国際会議（ミラノ会議）においてろう教育における望ましい方法として口話法が採択されたため、この当時は手話ではなく、口話法が聴覚障害者の教育の中心であった事を示すと思われる。

3.2 聴覚障害の教育者の切手

3.2.1 アベ・ド・レベ（図2②）

アベ・ド・レベ（1712～1789）はフランスで初めてろう学校を創設し、手話による教育を提唱した。彼の切手は1959年にフランスより発行された。この切手は、盲学校の創設者のバラントン・アユイとセットで発行された。この2種類を組み合わせた切手帳も併せて発行されている。

3.2.2 ザムエル・ハイニッケ（図2③）

ザムエル・ハイニッケ（1727～1790）はドイツで口話法による教育を始めた。彼の切手は1978年に東ドイツより発行された。

3.2.3 トーマス・ギャローデット（図2④）

トーマス・ギャローデット（1787～1851）はアメリカのろうあ教育の創始者で、1983年にアメリカの20cの通常切手（グレート・アメリカン・シリーズ）として発行された。通常切手の図案に採用されたと言う事にトーマス・ギャローデットの業績がアメリカで高く評価されていることが伺われる。

3.3 グラハム・ベル

電話の発明者として有名なグラハム・ベル（1847～1922）は母と妻が聴覚障害者であることから、終生、聴覚障害者教育に多大な貢献をした。図2⑤は1940年にアメリカから発行された偉人切手の1種類として発行されたものである。ベルの切手はカナダ（1947年）を始め、世界中から発行されている。特に電話発明100周年の1976年には多数の切手が発行されている。

3.4 耳や聴覚障害をイメージした切手

1980年、西ドイツから、聴覚障害者国際会議の記念切手として、耳（エンボスで表現）と振動波を示した切手が発行されている（図2⑥）。その他、聴覚障害をイメージした耳の切手としてはジンバブエ（1981年）、インドネシア（1981年）、ザイール（1981）、アラブ首長国連邦（1991年）がある。

また、内耳蝸牛における聴覚伝導機構を明らかにしたベーケーシは1961年にノーベル賞を受賞した。彼の切手は、母国のハンガリー（1968年）及びスウェーデン（1984年）（図2⑦）から発行されている。

3.5 聴力検査・聴能訓練の切手

聴力検査や聴能訓練を描いた切手はベルギー（1962年）（図2⑧）、ボツワナ（1981年）、スリナム（1981年）、南アフリカ（1981年）から発行されている。

3.6 手話の切手

聴覚障害関係の切手で最も多い図柄は手話を描いた切手である。最古の手話切手は1955年にユーゴスラビアで発行された世界ろう者会議の切手である（図2⑨）。

次に片手と両手による手話による切手を1例ずつ示す。図2⑩に1993年にアメリカで発行された“I LOVE YOU”の手話の連刷切手を示す。図2⑪に1981年にイギリスから国際障害者年の切手で発行された手話の切手を示す。手話を描いた切手は多数発行されている。

3.7 世界ろう者会議の切手

世界ろう者会議の切手は前出のユーゴスラビア（1955年）、ポーランド（1967年）（図2⑫）、ブルガリア（1979年）、日本（1991年）でそれぞれ発行されている。

3.8 聴覚障害者のスポーツ・文化

1969年、ユーゴスラビアから第11回国際ろうあ者競技大会の切手が発行された。1993年にはブルガリアから第17回国際ろうあ者競技大会の切手が小型シートを含む5種セットで発行された。図2⑬にそのうちの1種類の自転車競技の切手を示す。

図2⑭に1956年にポーランドから発行された国際ろうあ者チェス大会の切手を示す。チェスの駒と手話が描かれ

ている。

3.9 聴導犬の切手

図2⑮に1996年にマン島から発行された聴導犬の切手を示す。聴導犬の切手は盲導犬の切手に比べると、少数である。これは聴導犬の歴史がまだ浅い事によると思われる。

4. ヘレン・ケラーの切手

ヘレン・ケラー(1880～1968)はアメリカの女流著述家・社会事業家で視覚と聴覚障害の二重のハンディキャップを克服して、障害をもつ人々を鼓舞激励した。我が国にも3回来日し、視覚障害・聴覚障害教育に大きな影響を与えた。図2⑯は1980年にアメリカで発行された生誕100年の記念切手である。ヘレン・ケラーと共にアン・サリバンが描かれている。ヘレン・ケラーの切手は、スペイン(1980年)、ブラジル(1980年)、モーリシャス(1980年)、インド(1980年)、モルディブ(1981年)、日本(2000年)などからも発行されている。

5. まとめ

以上、筆者がこれまでに収集できた視覚・聴覚障害に関連する切手の概要について述べた。視覚障害関連の切手は世界中から発行されているが、特にアジアやアフリカ、南米で多く発行されている。また盲導犬の切手は欧米先進国で多い傾向にある。

聴覚障害関連の切手の数は視覚障害関連切手よりは少ない。発行国では特に東ヨーロッパが多い特徴がある。

切手の図案や発行理由もそれぞれの国や時代を反映しており、視覚・聴覚障害者の歴史を綴る上でも、重要な資料になり得ると思われるので、今後、未収集の切手の調査および収集を継続していきたいと考える。

このような切手を通して、視覚や聴覚障害に対する理解が広まる一助になれば、幸である。

謝 辞

聴覚障害関係の切手に関しては聴覚障害者切手クラブ(代表：長谷川則之氏)の集友諸氏よりご助言と資料の提供を頂きました。ここに心より御礼申し上げます。

また、今回の視覚・聴覚障害関連の切手展は大沼直紀学長による指示によって行われたものです。その実施に当たり、小野東教授(広報委員会委員長)を始め多くの先生方のご助力を頂きました。ここに関係の皆様へ心より御礼申し上げます。

なお、作品の実物をご覧になりたい方は、大沢までご連絡下さい。

引用文献(切手作品も含む)

- [1] 内藤陽介:切手と戦争 もうひとつの昭和戦史, 新潮社, 東京, 2004.
- [2] 大沢秀雄:「視覚・聴覚障害に関連する切手」, 筑波技術大学オープンキャンパス展示作品, 2006.
- [3] 大沢秀雄:「視覚・聴覚障害に関連する切手」, 毎日新聞つくば駅前移動支局展示作品, 2006.
- [4] 「切手展: 図柄は時代の反映 視覚・聴覚障害関連の130種展示--筑波技術大」, 毎日新聞(茨城南), 2006年7月22日, 25面
- [5] 「つくば移動支局 障害者に優しい切手や新聞, 展示」, 毎日新聞(茨城南), 2006年10月20日, 27面
- [6] JAPEX '06 第41回全国切手展ブルテン1, 日本郵趣協会, 2006
- [7] 大沢秀雄:「Braille(点字)」, JAPEX '06(第41回全国切手展)大銀賞受賞作品, 2006.
- [8] スコット切手カタログ2006年版, スコット社, アメリカ, 2005.

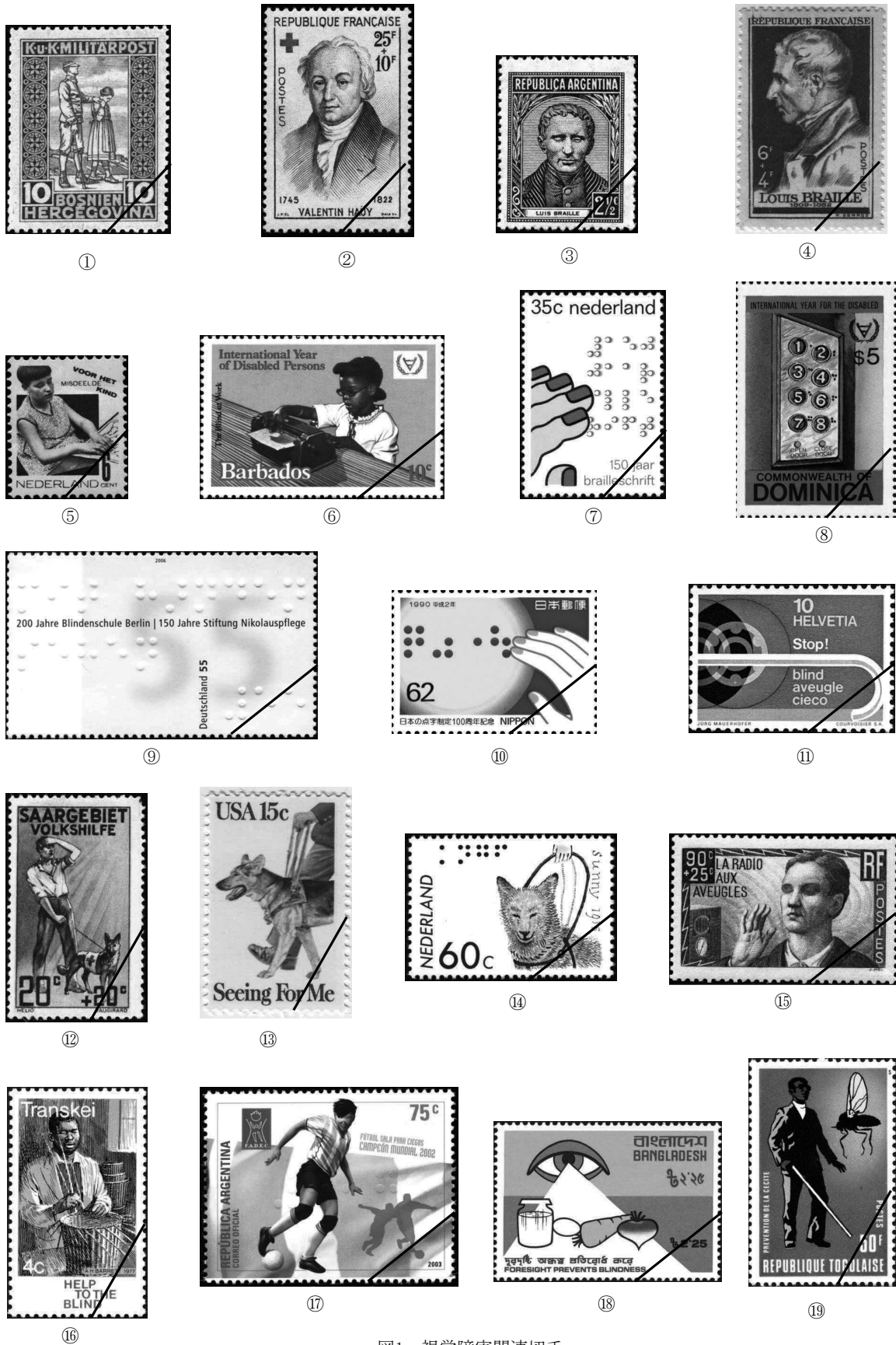


図1 視覚障害関連切手



図2 聴覚障害関連及びヘレン・ケラーの切手

Postage Stamps on Visual and Hearing Impairments

OHSAWA Hideo

Department of Health, Tsukuba College of Technology

Abstract: This study examines and collects postage stamps associated with visual and hearing impairments.

Stamps related to visual impairment are mainly classified into four categories:

I. Braille, II. White canes and walking, III. Guide dogs, and IV. Other (jobs/sports, etc.).

Stamps related to hearing impairment are on:

I. Ear and hearing impairment, II. Educators on hearing impairment, III. Sign languages, and IV. Sports and cultural activities of the hearing impaired.

Postage stamps are important as historical materials on visual and hearing impairment since the designs reflect the age when issued in countries where they were issued.

Keywords: postage stamp, blind, Braille, deaf, sign language

